

# 都市計画 マスター プラン

# ニュース スター

第5号

1998年3月 日発行

第3回『都市計画マスタープラン勉強会』が  
去る2月24日(火)午後6時より、市民会館  
で開催されました!(出席者:32名)

勉強会も、いよいよ3回目。今回は、参加者の意見  
交換編でした。本号では、当日のグループディスカッ  
ションの内容を中心にお伝えします。

## ● 今回のテーマは

“もう少し深く知ろう”

～グループディスカッションを中心に～

第1回勉強会では、まちづくりに対する素朴な問題意識や意見を自由に出していただき  
ました。

第2回勉強会では、情報提供編として、「都市計画の内容やしくみ」、「都市計画マスター  
プラン(以下『都市マス』)的な考え方の流れ(議論を深める筋道)」などの説明を行いました。

そこで、今回の3回目の勉強会では、これまでの勉強会の内容を踏まえて、都市マスへと  
つながる筋道を意識しながら、さらに掘り下げた議論を行いました。

当日は、次のような順序で議論を進めていきました。

右に示す5つのテーマごとにグループに分かれて、意見を出し合いました。

次に、出された数多くの意見のうち、各自最も大切だと思う意見に 印1つ、次に大切  
だと思う意見に 印を3つ以内でつけていきました。

そして、皆さんが大切だと思う意見を中心にさらに議論を深めていきました。

その結果を整理して、各グループごとに発表し、会場からの意見を受けたり、質問に答え  
たりして当日は終了しました。

各グループでの議論の概要は次ページ以降でお伝えしますが、共通して次のような議  
論の展開がみられたように思います。

- i)当初(1回目)出された素朴な意見等をもとに、さらに掘り下げた議論をしていくことで、様々  
な視点が出され、見方(立場)の違いによる意見の相違点も出たこと。一方で、都市マ  
スそのものの具体的な枠組みが固まっていないことから、より具体的なイメージへと展開  
する議論は、なかなか難しかったこと。
- ii)自分たちは何をすべきか、あるいは何をしたいのか、というような市民の主体的な取  
り組みの必要性について話し合われていたこと。
- iii)そのような市民の活動をしっかり支える行政の役割も重要であり、住民参加のあり方や  
情報公開のあり方などから考えていくことの必要性が指摘されていたこと。

## プログラム

1 本日のプログラムの説明

2 グループ分け

3 グループディスカッション  
テーマ別討議  
いったん整理して、大切だ  
と思う意見カードにシール  
を貼ってみましょう  
関心が高いことに関して、  
さらに討議を深めましょう

休憩

4 グループ発表と全体討議

5 まとめ

Aグループ  
住宅・住環境  
その1(高齢・  
福祉含む)

Bグループ  
住宅・住環境  
その2(まち並  
み・景観含む)

Cグループ  
自然・公園

Dグループ  
交通・道路

Eグループ  
都市計画の  
考え方やしくみ

5つのテーマ設定



## グループ = 住宅・住環境その1(高齢・福祉含む)

市民7名



「血の通い合うあたたかいまち」という目標像や、それを支えるための市民の役割、行政の支援などが議論の中心でした。

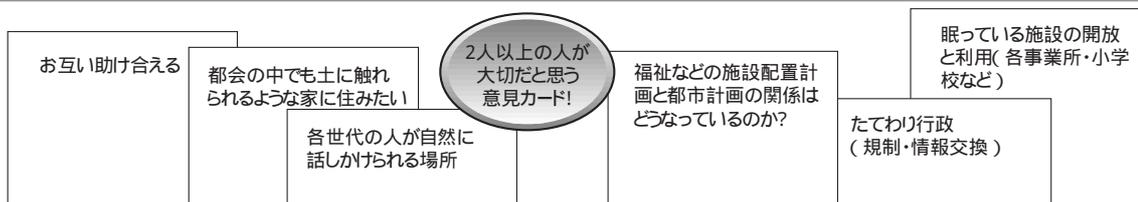
### グループ発表の概要

人々が集い・交流するまち、高齢者に配慮した住まい、土や緑を親しむ住まい、移動しやすいまちなどについて、様々な意見が出ました。

それらの考えをつきつめると、「人々がお互いに助け合うまち」を目指すことであり、「血の通い合うあたたかいまち」が都市づくりのコンセプト(概念)として大切ではないかという話がなされました。

そのコンセプトの実現のために、「市民は自立と責任にもとづいてまちづくりに参加し」、「行政はそのような動きをきめ細かく支援する」ことが必要だということが話し合われました。

具体的には、「高齢者が一人でも住めるような住宅をつくれぬか、また、その支援ができないか」、「地下鉄やバスなど大がかりなものではない、移動を助けるきめ細かな手段はないか」という意見がありました。



## グループ = 住宅・住環境その2(まち並み・景観含む)

市民7名



身近で感じている不満から考えた住環境や景観のあり方や、それに向けた市民と行政の取り組み方などが議論の中心でした。

### グループ発表の概要

道路や公園の整備などによって散歩が楽しくなる環境が大切、という話がされました。特に、雪の問題については、道路が狭くて困っているので除排雪のための「除雪税」を払ってでも住みよいまちにしたいという意見が出ました。

また、低層住宅が主体で、塀も低く開放的な、景観にも配慮したモデル住宅地を整備してはどうかという提案もありました。

マンションに関しても多くの意見が出て、一定規模以上のものを建築するときに、オープンスペース(空地)の確保を義務づけられないかという意見がありました。これについては、今は市民参加の取り組みは始まったばかりだが、このようなまちづくりを進めれば将来的には可能になるのでは、という話もされました。また、建築計画は早い時期に情報を知らせてほしいという意見も出ました。

景観については、都市部の混乱した景観を美しくしたいという意見や、銀行などのマークを統一してはどうかという意見が出ました。

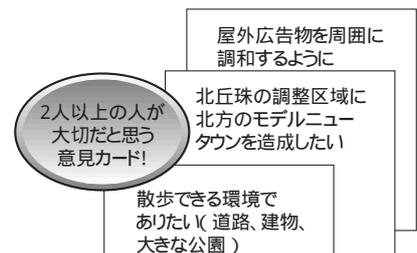
これらの実現に向けて、建築協定や地区計画などの制度を市がもっと宣伝すれば、市民も「こういう方法がある」と話し合いも進むのではないかという意見がありました。いずれにしても、今後は行政・企業・市民が協力しあわなければ、まちづくりは進まないという話し合いになりました。

### 会場からこんな意見もありました

真駒内では、違反広告物を住民組織で撤去しているが、イタチごっこの状態なので、条例で規制してはどうかと話しています。

☞ (発表者から)違反広告物や市の指導に同意しなかったものについて公表すれば、市民の景観に対する意識が高まり、条例の制定に市民の同意も得やすいのではないかと話し合いがありました。

規制だけでなく、広告できる場所(公設の掲示板など)の提供も行うなど、両面から考えていく必要があると思います。





## グループ = 自然・公園

市民5名

自然との共生ということの重要性や、市民の役割などが議論の中心でした。



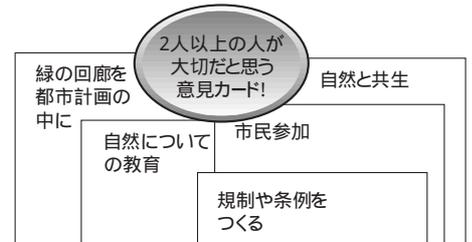
### グループ発表の概要

「自然との共生」、これしか生き残る道はない、ということでテーブルの意見は一致しました。

公園に関しても自然との共生が重要ということで、いろいろ話し合いました。具体的には、「トロの森」のようなイメージの公園、わくわくする自然のあるところ、コミュニティの場となる公園、大人が憩える公園など、様々な意見が出ました。

また、自然との共生に向けて求めていることを出し合うだけでなく、自分たちが変わる必要があるという意見が出ました。そのため、自分たちが学び、育っていかなければならず、その場として、身近な公園はまたとないスペースではないかということが話し合われました。

さらにつきつめて考えると「自然」とは何か、私たちが言っている自然とは人間本位の自然ではないか、本当の自然を追及していきたい、という意見も出ました。



### 会場からこんな意見もありました

整備されすぎた公園が多いように感じています。今後、憩いのある公園とはどのようなものになるのでしょうか？

☞ (発表者から) コミュニティの場になりえていない公園が多い。公園でバーベキューができないなど規制もあるが、一方で規制(管理)を求めているのも市民。「市の公園」ではなく「自分たちの公園」という認識が必要で、つくるところからコミュニティを育ていけば、もっとよいスペースになるのではないかと、という話し合いがありました。

藤野の「むくどり公園」は、障害を持った子どもと一緒に利用できるものを目指して、市民が計画づくりに参加してつくられました。今後の公園づくりの一つのあり方を示しているのではないのでしょうか。



## グループ = 交通・道路

市民7名

車主体から人主体への転換の必要性、それに向けた施策としての駐車場や交通局の今後のあり方などが議論の中心でした。



### グループ発表の概要

主な話題は駐車場と交通局でした。交通局は赤字なので、民営化や第3セクター化を検討してはどうかという意見や、地下鉄をやめて路面電車を増やしてはどうかという意見、その一方で、市民の足として必要ならある程度の税負担もやむを得ないのではないかと意見など、多くの意見が出ました。

基本的な姿勢として、「自動車主体から人主体への交通体系の転換」が必要だという話になりました。具体的には、歩道橋はもういらない、自転車歩道を走らなくてすむような自転車道の整備が必要、などの意見が出ました。

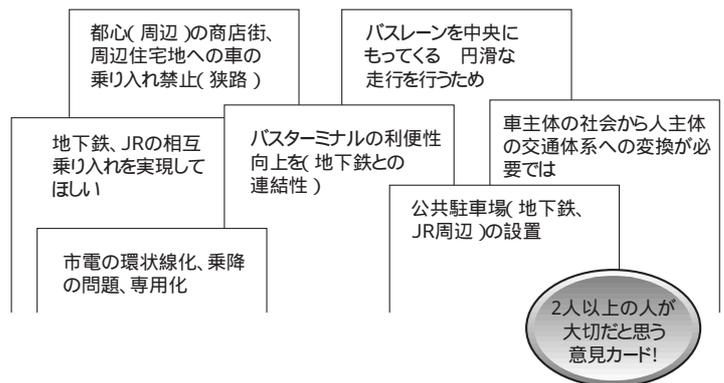
また、パーク・アンド・ライド等、都心部への自動車乗り入れを抑制する施策をしているのに、なぜ都心部に駐車場が必要かという意見がありました。これについては、市民一人一人も考える必要があり、自動車の利用を控え公共交通機関の利用を実践してみてはどうか、といったことも話し合われました。

### 会場からこんな意見もありました

道内の他市町村の住民のため丘珠空港をローカル線のハブ空港にすべきという意見がありました。その一方で、空港周辺の住民のことも考える必要があると思います。

交通ルール、社会生活を壊さないようにする話がありましたか？

☞ (発表者から) 商店街から車をシャットアウトするといった意見がありました。交通違反については運転者個人の問題だと思います。





# グループ = 都市計画の考え方やしぐみ

市民6名



市民参加の必要性和、そのあり方についてが議論の中心でした。

## グループ発表の概要

市民参加について多くの意見が出ました。市民を空気とっていないか、都市計画のどこに市民の声が反映されているのか、そこに住んでいる住民の意見がその場所の計画に反映されることが必要、といった話がなされました。

現在行われている住民参加については、法律に基づく「縦覧」という手続きだけでは不十分だという意見や、住民側の組織としての町内会は形骸化しているという意見が出ました。

また、具体的な市民参加のあり方として、地域の将来コンセプトを考える段階から計画決定の段階まで、各段階で参加の機会が保障されるべきだという意見が出ました。いずれにしても、最終決定権は地域の住民が持つべきだということが話し合われました。

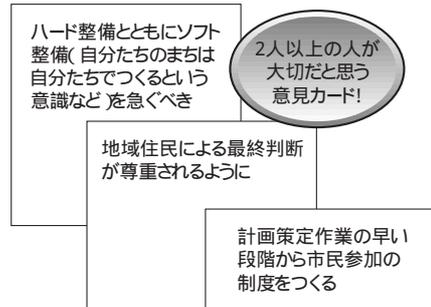
一方で、広い地域にまたがる問題では、市民による本当の合意は可能だろうかという話がありました。これについては、それを可能にして住民参加を進めるためには、身近なところに都市計画のセミプロがいるとか、いつでも情報を引きだせるといったソフト面の充実が必要という意見もありました。

その他、市民と行政が対話できる場を日常的に設けておくことが必要だという意見や、行政の情報公開についてもっと努力が必要だといった意見もありました。

## 次のような要望も市に出されました

この勉強会としての意見書(提案書)を出させてほしい。

☞(市から)平成10年度に、この勉強会に出席された方々の意見だけではなく、ほかの方々や市内部の意見等もあわせて整理し、それらを踏まえて素案づくりを進めていきたいと考えています。この会で出た意見はそのまま記録しますし、我々もしっかり受けとめたいと考えていますが、そのためにも読み込みに時間をかけたいと考えています。また、具体的な進め方の検討はこれからですが、来年度も効果的な市民参加の場を設けたいと思っています。



## ● 次回の予定(3月24日(火)) テーマ: “まとめ” ~ 来年度以降に向けて ~

今回は最終回として、これまでの第1回から第3回までの勉強会をふりかえり、来年度以降の都市マス策定に向けての論点の確認をしていきたいと考えています。

メイリングリストへの登録は現在でも受け付けています!

このレターは、登録者へは直接郵送しています。まだ登録されていない方は、どうぞご登録ください。  
詳細:パンフレット「21世紀の魅力ある街づくりをめざして。」

ご意見募集:都市計画マスタープラン勉強会に対するご意見・ご要望などは、郵送かファクスで下記までお寄せください。

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目  
札幌市企画調整局計画部都市計画課土地利用係

電話 011-211-2506 ファクス 011-218-5113

